



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会誌学 第一巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学社会学科 3、4年、昭和 35年度
Issue Date	1960
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77296
Type	manuscript
File Information	K025_0135.pdf



76
MADE BY YAMATO NOTE CO., LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

NOTE BOOK

社會學

社會學科三年級

東洋大學
昭和三十一年度

第一卷

YAMATO NOTE

主として「民社会の
歴史」について
研究し「我々の社会を

基本的枠組の理解である。

才二章 相互利用の世帯

力三
 城壁の
 同世帯と口氏

才立學口茂社魯日為部普告

才四多よカの起織としの口糸
 才五多よ口糸内の起織の持糸

才五子口家内の五子口家内

宗族

木
落

都

力と家と口と家々基本の幹

第七子 林落と柳市は弟三子の幹

八
 世
 の
 村
 落

我々の世界とは何ぞ

敵とも
資本家の資本主義と労働者の労働
自分の学校の先生と他校の先生

少くとも協力者の世界と非協力者
世界と非協力者の世界と非協力者の世界

④ 雑法

病女自身をよその奥に同情する
病女自身をよその奥に同情する

自分の妻と他人の奥とを見境なく親しく

すゝめは大同心である。自分の家族とよそ
の家族とは区別し区別するものとは一般に
思はれぬ。よとある法律の上で其区別が
公認され撤廃保護する所。

1630
580
9210
1910
380
2490

それの子供自身に思ふべきである。

① 我々の世界は彼等の世界に
対する。三つを
我々の世界は彼等の世界に
対する。三つを

である。我々の世界は彼等の世界に
対する。三つを

二層。一層は本人の内で自分の家族
は特別に身近かに感ずる人にて他の一般

の本人より区別して思ふて居る。二層は
世間の人は自分の家族は我々の世界に
対する。三つを

の者の幸福や不幸には積極的に関与し
て居る。三つを

根拠的に同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

同心を以てた。三つは行かぬ。
同心を以てた。三つは行かぬ。

（自他共にゆるす）

親族の仲子にも同じ村人の仲間にも

感ぜられよ

然り

クラスメイトや

同窓の仲子にも我々の如きは

同胞の者の同様に、同スターのファン仲

子にもかすかな我々の世界がある。

（生者同族の我々の世界は繋がりある生業場を成す）

同一のイデオロギーの人はのうに同一の理想

を成す人々のうに我々の世界が感ぜられ

我々の世界も意欲されし片。今日全

世界の人口は二つの陣営に封じこまれ

標として居る。

自分がある。団体や仲子は総て我々

であり、それ以外の者は彼らである。

強く長く結いつて居る。結束もあり

弱く一時の間の関係もある。総てかく

かく我々の世界を形成して居るものは

我々である。たが同様に我々の相互関係

を引き、二人の国は我々か。の国は

人の間には結合するが中絶が、その中に相互新

用。同族である。それは合戦の国はつて、生業

多倍に

互いに生存をもとを展を希し又協力も

して居る。一団である。自他共に及ぶ。

（我々の世界）は家族親戚に

なくとも恋人同志の二人の世界にも

親友の同にも見られよ。

我々の中は日本人は一億一にたとえ

きである。あつた。我々は一億一にたとえ

た。我々は一億一にたとえ。我々は一億一にたとえ

強く我々の世界を意欲し我々の世界と

対峙した。我々は一億一にたとえ。我々は一億一にたとえ

を共に居る。我々は一億一にたとえ。我々は一億一にたとえ

運命を共同して居る。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

居た。日本人がわした。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ。我々を一億一にたとえ

の國は相互利用合理的國である。矢張り
水も社屋である。敵になる。一歩先の社屋
である。然しそれは我々の社屋ではない。

我等の社屋は、何か共同して片も國を
相互に認め合ふ事によつて新近を感じ

て片も人はある。相互利用の國は

は共同の國は、相互に對立の國は、

相互利用の國は、交易を要する。あつたか。
然り。それは人同士の半分以上である。
ユイの種族の種族

せんじつ
ふぬく。重く共同して感じて居る。日本人は

外の世界の人のより区別された日本人に

我等を感じ、それ以外の人の御手を感

じたのである。日本人の國民は、
その時我等の世界は明果

我等の世界は自分から一歩も身近かに感

じて片も人の一國である。他と区別し

て同心して片も仲である。互いに生存を

究極を希求し合つて片も仲である。
自身

自分から自身に對する。共同的な文を

れ近い感情で接し、自分から領するものを

ほとこするかほとこす事を希求して片も

人である。そんな特殊の一國に對する

① 自分に對する、かぬく家族には感いたる行

つたりす。 (考へて) 親は自身を 自身 保衛す。

以上に子供を保護するのを 本能 と思ふ。

親が子の身代りになつて罪を背り出り子か

親の身代りになつて罪を背り出たりす。は

不思議に思はれる。 自分自身の生命

や生活より以上に親が子の又は子か親

の生命や生活を大事に思つて自分自

身の生命や生活をかろんじ相手の生

命や生活を大事に思ふ。 慈愛 を特異

とか 献身 と呼ひ、それは 日本の 愛 の本質の

ゆゑ思はれる。 自他を 慈愛 の考へは

最も老へたる人より

感情や慈愛をその子、その一國以外の

人々に 適用 して行ふ （考へて） 慈愛と云ふ

語は （考へて） 適用する 慈愛 である。

我々の世界の慈愛を知る世界の

適用 （考へて） 我々の場合が 愛 である。 （考へて） 慈愛

家族 （考へて） 我々の場合が 愛 である。 （考へて） 慈愛

の人々に適用する時はそれを 愛 と云ふ

のたとひ 慈愛 である。 （考へて） 慈愛

す。 慈愛 は 慈愛 である。 （考へて） 慈愛

け 慈愛 と 慈愛 の世界 慈愛 の世界と

の境界 慈愛 の境界 慈愛 の境界 慈愛 の境界

は 慈愛 の境界 慈愛 の境界 慈愛 の境界 慈愛 の境界

② 家族の階級も同様に高い。

自分の生涯の筆先は最後まで筆を
 止める。そこは合点がある。
 家人は如何に自分自身と同一体として
 も人同化してこの我と人同化してこの
 家人の一人とは別の存在である人格の
 威と自主性曲の至るまで個性がそこ
 にはある。

「五と一の子一枚のへちま」でも銘牌
 の様に峻麗である。
 甲の家族内の子
 寺も幸福に乙の家族には強さを
 国紅で、定規内の五素事は家族内
 乙は定規にかけられ、甲は一般に家族
 甲は苦しいに居るものがある。
 甲はそうあるものがある。
 法律的にもそうある様に制定されてい
 る。五と一の子一枚のへちまは
 は他人がそれをしてゐるものと物う
 柄として他人をしてはつけそれ我
 々の世ををつくうもの。
 家族が別で、城壁
 雨後の城壁

7

口民社^{（俗）}と家族と国^{（俗）}を人回を一同と

してその内外を最極に区別つけ、そ

の内に我々の世界を形成せしめ居る

最も典型的な社会の様相である。

口民社^{（俗）}に所属する者としてない者

との別は明白に口家の制^{（俗）}による制

定されて居る。口民社の^{（俗）}限^{（俗）}を決定

して居るものは口家の^{（俗）}はつきりした

制である。人は^{（俗）}口家の制^{（俗）}による

何れかの口家の^{（俗）}所属し最極に口家

の統治に服せざるをたない。服せしむ

るものは口家の^{（俗）}権統治の力である。

口家^{（俗）}と口民社^{（俗）}との二つは^{（俗）}世界の何れ

口家が最も上つてゐる（俗）

人回の^{（俗）}使用

何れの時代にあつても

の地をへあつても最も明白にして強きもの

自他共にあつても

① 此の時代は、世界的交流の被るべき

内政、封鎖的に行はれて片々事によつて

容易に認められ、内外の別の際集に

認められ、世界的統一である。今日では

口民族と家族が明にいかくのか、これは

名目統一であるが、かつて交通通信の

技術が幼稚であつた頃、口家の統治

が、先方に立つ政治に口家の領土の隅

にまで及ばなかつた頃は、集落地帯

即ち村郷や都市も内外の別の

② 自他共にあつても、我々の世界として家族

の口民族は最も顕著なもので、その世界

の統一は法律的にも、畢竟これに依るべき

とされてきたのである。③ 別れた

この二種の我々の世界に比すれば、他の我々の

世界は、今日では、それ程顕著なものでない

世界は、今日では、それ程顕著なものでない

同族、同郷、同室、同業、同族、同郷、同室、同業

④ 年暮や清者の生活を共同して、其の程度

如何によつて又

⑤ 今では、防衛の機能は口家によつて代行されてゐるか

生活共同の機能（それこそ、其の基礎も生活共同

大に依存されてゐる）が、僅かに認められ、それが

※今では要する所の材料は
基礎的な知識、技術、材料の場として
存しているところである。

※都市の隆盛は都市が一国として外部に
対立して生活協力を得ることを目的とした生活
態度に思われる。この時代は統一である。

都市不安に対する防衛も生活の場力

も重要である。これは行はなければならぬ。な
るかに、この時代には口宗統治が

多分に必要に口内あふれ行方不明の

際になつて、今日においても、消費

しては、決してない。重要であるの

的材は今よりも決して消えては、ない。

※人の文化の繁栄の時代から

と、なる。この時代を形成して来た

大それた者へ、これ、それは、我々

の世界が、どう、変へて来たか、と云ふ

⑪ 日本に於ける
先史時代の住居跡にも家族と其の
口宗的統一およびその片断が
ある。

（生活）

である。

人同文化の歴史を調べたところの種々の形

成の~~結果~~結果によると口宗が形成されたか

に~~結果~~結果として口宗が形成されたか

である。どの程度に継続的であったか

は多少として口宗が我が世をなして

居ることは当然である。⑪ 集落記号等に

括弧が我が世を形成する。前に

血族が我が世をなしたと考へる

は、又血族が口宗に先立つて我が世を

の形態である。考へる。括弧である。

血族から口宗へ口宗から他人が混同

したと考へるゝ事ある。

村落から先に先行したるは先づ

へい、好である。然しそれと明白では

ない。ただ村落から都市に先行し

たるは明かである。そして都市から

先づ其の発生し発展したるは明かである。

あ。

の原

家族、²血族、³村落、⁴都市、⁵国家は

その規模においてこの順序をなす性質に

ある。しかし、⁶発生、⁷発展の先後は必ずしも

そうではない。然しこれ等のものから先に

可成る。人々の我々の世界である。

は皆同様である。けれども^血民族が我々の
世界として強く支配して居る以上は家の
支配は弱かつたであらうし、又村落の支
配も強くはなかつたであらう。国家の
統治が強力である。今以上は^血民族も村落
も都市も微力となり、^{人口}人口の多寡の外
には家族のみが^強我々の世界を支配して居
る。けれども^血国家の統治が活潑でなかつた
以上は村落も都市も^強我々の世界を支配して居る
の世帯をなして居る。村落も都市も
それぞれには^血民族の活動は顕著であつ
たであらう。

これは国家の統治が微力である以上、かく
我々の国家の動きは激甚な運動である。

今日では

力が重なり

口家の経済力も強くなり、大に、かくの如き
口家の同の社会斗争は激甚深刻

④

口民の斗争の対立斗争は何時の時代
にも激甚深刻な程の、冷戦の時代
自然の時代にも多量の中、人同
は生活して来た。④中、人同
に平和が布して居た時は、口家の同
力の平衡が保たれて居たが、い
ったから、人同の斗争は、平和を
しむるは出来なかつた。

口家即ち
民衆

かくては、家族と口家、強力な我々の

世界をつくり、世界の人数は幾つかの

口家即ち

口民の斗争は、我々の世界に分

割されて居る。口民の斗争は、我々の

世界の最大規模の斗争である。④

④最大の我々の世界は、世界の人数の

内、有する。斗争は、口民の斗争

即ち、我々の斗争である。口家の斗争

は、世界の人数は、我々の

世界の斗争である。この斗争は、

仲に堅牢である。口家の斗争は、

なり、世界の人数が、我々の世界に

政治の基礎の上に立つて我々の世界は力の組織体として彼等の世界の方の組織体と対立し戦争と争ひ。政治そのものの力の作用であるからである。

内に対し
力の上に立つて片も統治作は外に對して
も力として解決し合ふのは當然である。
故に統治があり政治がある以上戦争は
やむを得ない。
故に人の世の統治が重要である以上世
界中一つの統治組織の中に治められ
ないで世界平和がある。同じく

12
た
よ
し
る

我々の世界は生活の為に協力する世界
である。協力しない個体に対しては
一國である。

一口族は外に民に打ち出す。我々の世
界を形成して居るが、一口族の中にも
家族毎に我々の世界を作り他の
家族に打ち出して居る。けれども家
族相互は打ち合ひして居る。敵対的
である。生活の全体的協力は
ゆるぎなくありその協力は個々の
生活の為に必要である。生活の
ために生活協力の組織である。家族

毎の同感の協力もゆゑである。是れは
凡そが成立も存続も困難な場合か
ら、家族の組織は合理的契約
的のみの協力し得る。愛情的の
容易なる。家族が成立して
協力を合おる後である。他との協力
は合理的な法則のみの可能である。
と云ふのは、家族こそ人の家柄の
我々の世界である。

生活に於てすゝのは他の人より合理的
の協力を得るためである。

凡そが凡そ相互の合理的な法則

全体的協力のみに保証する。然し

没我既身的な家族も合法的な國位

のみにして保証する。門閥的なるは

家族の如くは我既身的な我々の世

系より^{打算の爲め}整頓的合法的な我々の世を

いふより^{打算}整頓の形の我々の世を

ある。此れを^{打算}中か^{打算}愛護するに^{打算}し

た^{打算}るに^{打算}し^{打算}る協力作である。それは愛

りない。

第二章 家族

家族は国民生活と密に人同士の生活に

強固な社会的絆

を有するものである。日本も例外ではない。

社会的

か、今日日本では此家族を如何に維持するか

が問題である。国民生活に於ける家族は

細胞の變化とも云ふべきものである。日本人

の生活が根本的に大きく變つてゐる。

生活

を要する。此家族形式の變化は

型

家族より夫婦家族への移行に外ない。

ぬ。

凡そ日本における家族型はその世代的環

境形式の相違による三つの型に分けられ

て来る。第一は世代的近縁を共にする

多限に

数が漸次増大して行く型、カニは家族員

数の増減、世代毎に同一の増減を反復

して居るもの、カニの型は家族の存在は

一世代毎に増減するもの。カニは

この型と見られなくなつたものである。こ

の型を私は同族家族と呼んで居る。カニ

の白川村の例はその最たるもの

である。

カニの型は直る家族と呼ぶのである。この

型の家族は本における花束の家族の

大部分を占めて居るものである。花束の本

の家族の本流を占めて居るものである。

（多限に）

数が漸次増大して行く型、カニは家族員

数の増減、世代毎に同一の増減を反覆

して居るもの、カニの型は家族の存在は

一世代毎に増減するもの。カニは少数の家族員

で居ると見られなくなつたものであつた。こ

の型を私は同族家族と呼んで居る。カニ

族の白川村の例はその最良の著者もの

である。

カニの型は直る家族と呼ぶもの、この

型の家族は本における家族の家族の

大部分を占めて居るもので、在来のは本人

の家族員の本流を占めて居るものである。

口民生活の民文化の方針に
よって生れた新らしい

新しい型は戦争法が氏家族型で

口民の正常な家族型と認め

にであるのである。生活の必要から

形式的には氏家族型は年々共に増大

しつつあるものである。口民は法制的

変革によつて急激に氏家族型に近

やられてゆく。

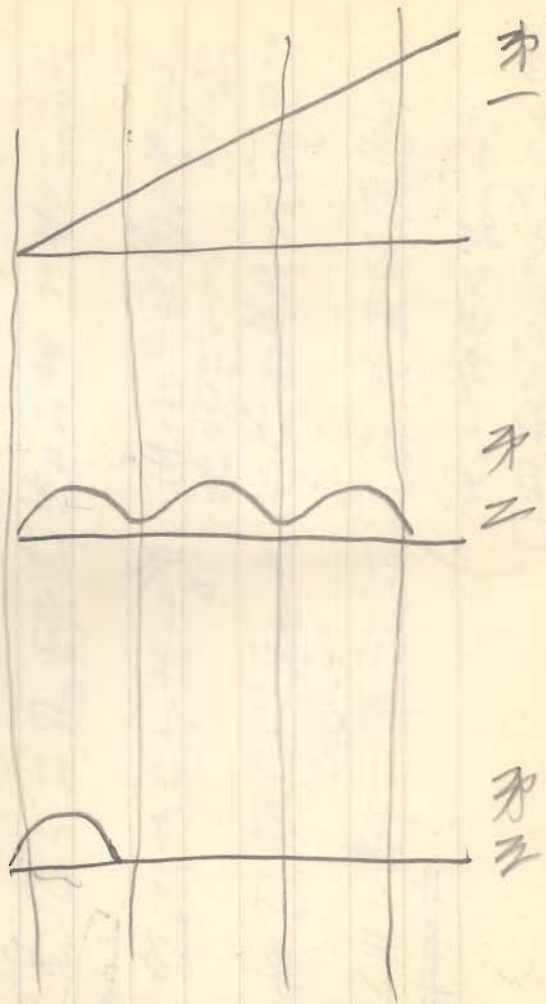
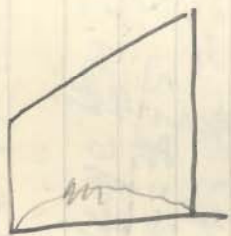
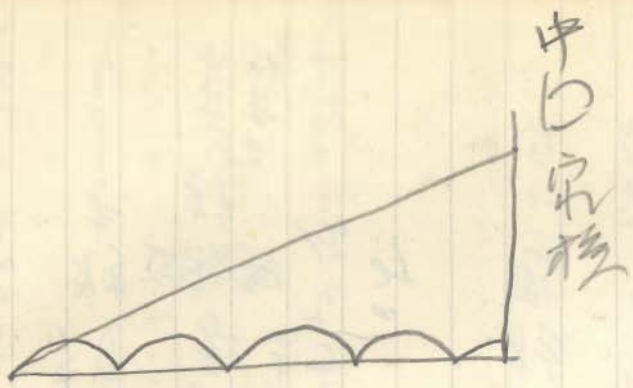
我々の型は夫婦とその子を中心とし

てある。我々の型は直系家族と異

な生れ来る子と子とよりなり、多

く多なるは、我々の型のみ、かゝる家族の中心

他は結婚と共にして行く家族型である。



オ一の型^{では}その家族の中に生れた者は皆
 その家に止まるもので世代を交わると共に
 多量に増えるものである。
 一と二は家の觀念を伴つており、家は
 多量に存続するを建てるといふ。よ
 りである。三は夫婦の結合によつてなれ
 夫婦の
 結合の解消によつて消滅するものである。
 一と二は血族者集^のの家族であり
 conjugate family のことである。
 三は夫と妻の愛情によつて成る集
 合である conjugate family といふた
 りのてである。

以上より

一は少数の異例的存在としてこゝでは姑くこれ

と視野の外におき、二と三の二つの型のみにつ

て考へて見る。二は在来のは本家系の主流

であり、三は戦時に急激に発生しつゝ、あまり本

家系型である。戦前より本家系型は外形にお

いては名実ともに二はを限存続する事と見てゐる。三は

戸籍上は本家系であり、三は夫婦の同姓の

成立と共に生れ、その同姓の消滅と

共に解消する。家族である。

三は家の概念が有し、三には有しな

い。

家の概念は家系の名義の存続と

展を予想して居る。又現在に於ける

家族の統一の活動に於ける

立場に於いて實現するものと考へらる。

故に家族の統一の活動は過去より現在

にあり更に將來に及ぶと共に横

に家族の統一の活動に及んで

居る。故に現在に於ける

家族の統一の活動は過去より

に家族の統一の活動に於ける

と考へらる。家族の統一の

活動に於ける

統一の活動に於ける横の

意に、民之化は他人を教化と
意味し、他人を教化は他人の人柄
の絶対的自覚を前提とするもの
であるか、である。

家の觀念においては家族他人は
何れの位階にあるものも家に奉仕
する公僕であつた。子や妻が中女
な僕であつた。夫も家主も
又家の中心を公僕としてその生活
をさしける。

かくて家の觀念に導かれし居る正子
宋程のころは宋程は其の周囲
他人を

の宗族子のためは特權となすゝと云ふ

邊も也其の宗族子のためは特權

に依りて政花と私は未だを周

國のためは甘んじし特權なりと云ふれば

たゞたゞなりと云ふはそれか家の偏私の私利であつた。

宗の私利に於ては祖先への感謝と

子孫への期待はか宗族互の同士の親

序を保つて宗族互の政花と私

に争ふものより云へば特權と云ふは

家の中の秩序維持のためは孝の道徳

が大方を支拂ふたつて居る事は容易に

思ふべきことと云ふべきが、家への献身

（二葉）

の道徳は最も著しく戸を父に要

清水の尻にやぶあり。是處す。

直子宗親は御子と
三世代宗親時仁

二世代之際、
二世代の
二世代の
二世代の

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

精十二人位才力普遍

あ
た
あ
ろ
ろ
人

この程の数の宋格なてあはれは相互に

その生活の隅々まで理解し、同情し、含む

ゆゑに今も事か出事とのほきゑてある。

けれ、
この
子
宋
は
残
り、
ち

多ては思ふに
なくあり。戸元も

元の白毫は巴力な
奴くたう、
茄子、
和食

集賢堂

中

⑤ 次 家族 (家族の) は足るべきものか
 西洋の夫婦家族は子に元氣な若くは
 婦の父母と兄弟とをなす。二十才を立
 ちて独立して出て行く。

父の自分から。老人家族を作る。
 こんな家族は老人は独りさいしく
 清く行く。老人は社会から目かくさる
 にあきらめ清く行く。

△ 家族 戸籍の上では今迄に家族は母の
 子を養つて居る。戸籍の上には直に家族が
 完全な家族をたてるには未だ半世紀かかる
 であろう。然し戸籍の意識はしつと増す
 方が速いであろう。

⑥ 家族 (家族の) は足るべきものか
 西洋の夫婦家族は子に元氣な若くは
 婦の父母と兄弟とをなす。二十才を立
 ちて独立して出て行く。

⑦ 家族 (家族の) は足るべきものか
 西洋の夫婦家族は子に元氣な若くは
 婦の父母と兄弟とをなす。二十才を立
 ちて独立して出て行く。

父の自分から。老人家族を作る。
 こんな家族は老人は独りさいしく
 清く行く。老人は社会から目かくさる
 にあきらめ清く行く。

△ 家族 戸籍の上では今迄に家族は母の
 子を養つて居る。戸籍の上には直に家族が
 完全な家族をたてるには未だ半世紀かかる
 であろう。然し戸籍の意識はしつと増す
 方が速いであろう。

⑧ 家族 (家族の) は足るべきものか
 西洋の夫婦家族は子に元氣な若くは
 婦の父母と兄弟とをなす。二十才を立
 ちて独立して出て行く。

⑨ 家族 (家族の) は足るべきものか
 西洋の夫婦家族は子に元氣な若くは
 婦の父母と兄弟とをなす。二十才を立
 ちて独立して出て行く。

⑧

夫婦家族型においては老人は老人又

の家族を字むのか帯てある。一人になつて

る老人は行くか子供か知人の

家へ行くか （おまへさん）

夫婦家族における老人の死にきわは

余りいかにいかに老人のためは

なす。財力を惜しかり自主自活したけ

れはなぬ。

（西沼）この世界よりはおれ

息子家族では老人は生計や経済より

はあれ。子孫の孝養のためには生計より

子孫の哀惜の内に死す。

此夫婦家族と異なる家族は一代記

の

住するもの他人の生活と現在をみ

余り （おまへさん） 家族とされる事か多うので他人

の人格の自主性を尊重しす事を連

てきた。民衆的文化の方向に反す。

と云ふ事か （おまへさん） 認められざる共に、自らを

の軌印や婦人の人格の侵害を犯す

恐れがある。と云ふ現用もあつた。のまゝである。

そのうちおれは （おまへさん） しては （おまへさん） 新交の

施行に伴つて色々の困難が起つて居る

りし事 （おまへさん） （おまへさん）

老人の位 （おまへさん） 家族の構成の中に

見えなくなつた。と云ふの （おまへさん） である。

⑨

a
の前半は異よ。

今の日本の老人は多^定はつれの

老後を経験して片よところに向ひ

かあ。

日本の

けれと今々の若い親連は子供

連の将来のみに幻術園の入念にす

う心をだして片よ。

意欲の面でも日本の家族は夫婦

家族は若くさるのはまじく歳月

を要するよ。 (b)

(c)

実践道徳の

孝の道徳は去つておらしい道徳があら

た。老後を経験して片よところに向ひ

かあ。人生の終焉に對する悲嘆が力

強つてイメーじがやつちやあつた

庶民生活における一代記終焉の

老人の國は余りに甘いものである。

夫婦家族は元々旺盛な働き盛

の人の天口。老人や幼少者は

附随的存在。 (d) 能率的社会向き。

直に家族は穿つ老人や幼少者の

天口。働き盛りは特殊の奉仕

の生活。人生第一主義社会向き。

(c)

(教養の乏しい^や可哀な^や花の悪も
生んで居るといふ^や松は^や政田^やの^やか^やも^や知^やれぬ^や)

1. 行政的地域集団
 2. 氏子集団
 3. 町会集団
 4. 青年会集団
 5. 経済的集団
 6. 官文の集団
 7. 血縁的集団
 8. 共同利害集団
 9. 宗教的集団
 10. 政治的集団

第三章 村落

村落と都市は包摂の上で共通した
 性質を有する。外部から見た
 対し共同で防衛するより、内部生活の
 協力をなすべく、是は村に對する。
 相異するは、都市には市民社會にあ
 る。この文化の結晶たる機能は、
 人々を束縛するに在り。是れをい
 く思ふものに對し、村落は是れをい
 るべき。
 日本農村の農民の生活を考察するに
 正確に調査し、之より、彼等の生活の十
 分の五を集團をなすことは、且に
 大體收束する。何れの方
 り。

おとも、これ等の牛集(あひ)を重く見しん

々々
 云々の
 ので
 は
 な
 く
 存
 在
 す
 る
 も
 の
 の
 中
 に
 も
 あ
 る

有る事也。
特々地方には

上の十種の内の或は
 空の集の圖に

力あり、他の地より甚く其力

2. 瑞令
 3. 何れの地

十
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

氏子の^の同地域の調へて

と改定集の面地域の面積の形

式に依り、
工事の
傾向が
認められ、
今後の地質調査

阿久保園里の地区には大中小

の三つの地区を一組として認め、ふ

第一地区 - 1 万字組 近隣集団

第二地区 - 大字区 新郷

第三地区 - 行政村

私は

この地区より順次に第一地区

第二地区第三地区と名づけ

てた。

地方

この三つの地区の中第二地区には集

団が豊富して居る。又、各地

区の中には、^{はその地区の人々にはよく知られて}行政的な生活

のありや方向に互って体系的に在る

ものがある人は、かくの如き生活

内容によつて、身体的な生活の^{基準}を

確立の体をもつて、^{行政的に}行つて

て、^{行政的に}相互に^{行政的に}接する

関係にあり、互に^{行政的に}接する

的統一を志して居る。

この邦に社会地区に存する。社会は統一
一に名づけて私は自然村と呼んだ。
自然村は一般に部落と名づけられ
て居るものに一致する場合が多く、
それ故に旧幕時代の行政村
の今の姿であったり、旧幕時代の
氏子仲りの今の姿である場合が
多い。

明治末期頃から

現在の日本の山村民の生活は

邦に社会地区は大体に近年町村
合併のあったところの町村の地区
行政

六月十七日

であり、第一社会地区は一般の文字
又は組合と云はれて居る地区
に一致する場合が多い。

第一社会地区は第二社会地区の連
合と見、すく第一社会地区は第二
社会地区の構成単位である。と
認むべき色々の根拠がある。
故に第一社会地区こそ、個別的
な社会的統一と見、すく、且つ第二
社会地区における社会意識による。
相互協同関係は甚だ強固である
中からその社会的統一性は第一社会